知識と共感で動物解放を早める

特定非営利活動法人動物解放団体リブ
2022年度 年次報告書

Animal Liberator
動物解放団体リブ

改めて、
リブってどんな団体？

ミッション

リブのミッションは、『動物解放』。
すべての動物に対する差別や搾取を無くし、自由と尊厳を尊重し、解放することをミッションとしています。

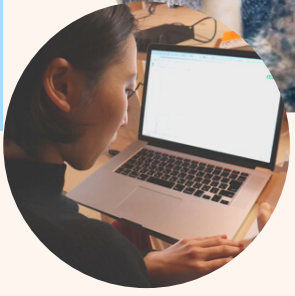
これまでの主な活動

以下の活動方針のもと中期計画の通り、娯楽分野の活動から始めました。

- 日本の動物解放活動における重要課題を「動物利用の現状に関するデータ不足」と捉え、現場調査を活動の基盤に置く。
- 情報収集と分析に十分な時間をかけた上で、事業の目標設定を行い、戦略設計、実行し、評価を行う。

①日本一周！動物園水族館調査

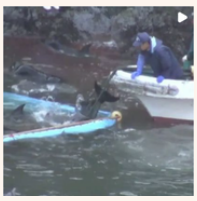
団体発足から3年間は動物園水族館問題に注力する方針を取り、活動を開始しました。当時は動物園水族館に関する網羅的な情報が不足しており、広範な調査を行う必要があったからです。2017〜2018年にかけて延べ9ヶ月以上に渡って行った『日本一周！動物園水族館調査』では、日本のほぼ全ての動物園水族館計283施設を調査しました。調査結果は、ウェブサイトのレポート記事、YouTubeへの動画投稿、そして電子書籍『動物園水族館閉鎖』に公開しています。



②書籍「イルカ・クジラ解放」執筆

2018年12月からは和歌山県太地町で行われているイルカ追い込み漁の現場調査を開始、イルカ突き棒漁が行われている東北、沖縄も調査を行いました。

捕鯨、イルカ漁は日本に特有の動物利用問題でありながら、国内では実態が知られていないという特徴があります。またイルカ追い込み漁は国内外の水族館産業と密接に繋がっています。動物解放活動の観点から、鯨類を軸にこれら産業による搾取利用に関する情報を一元化する必要がありました。捕鯨・イルカ漁・水族館に対する活動を行う活動家、そして未来行うであろう活動家の便利のために執筆した書籍『イルカ・クジラ解放』を執筆、公開しました。



③啓発活動や社会へのアクション

これらの活動を軸に、適宜ウェブサイトやSNSを通しての啓発活動、オフライン・オンラインでの講演会や勉強会、行政に対する陳情書の提出等を行い、動物利用問題や動物解放に関する情報をお伝えしてきました。

リブが大切にしている価値観

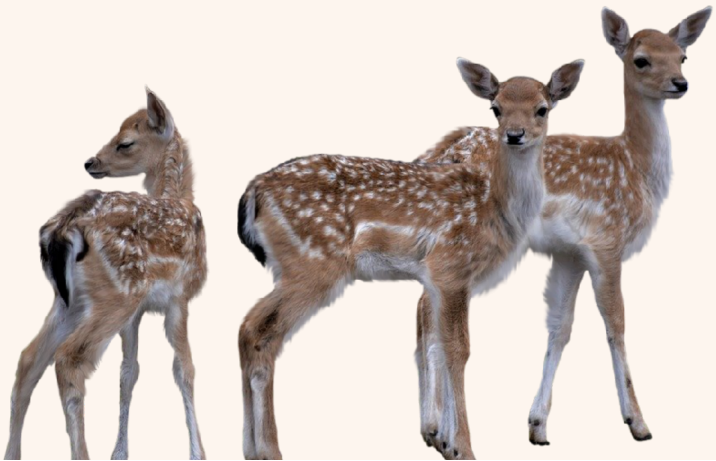
動物解放と人間解放
私たちは人間を含む全ての動物に対する差別や抑圧のない世界を目指します。その目的の元、選択的に社会的に最も下位とされている人間以外の動物に焦点を当て活動しています。その意味で当然、活動をする中での人間に対する権利侵害にも反対します。

知識と共感で動物解放を早める
私たちは、問題に対してやみくもに反対するのではなく、目的と戦略を持ち、知識とともに動物への共感を呼び起こします。相手を責め立てるのではなく、問題を理解するために必要な知識を明確に提示し、相手が自発的に動物たちに共感できるような活動を行います。

最大限できる効果的な活動をする
私たちは、その時点で最大限できる効果的な活動をするために、活動を評価し、改善することをくり返すことで、チーム全体で向上し、活動の質を高め続けます。

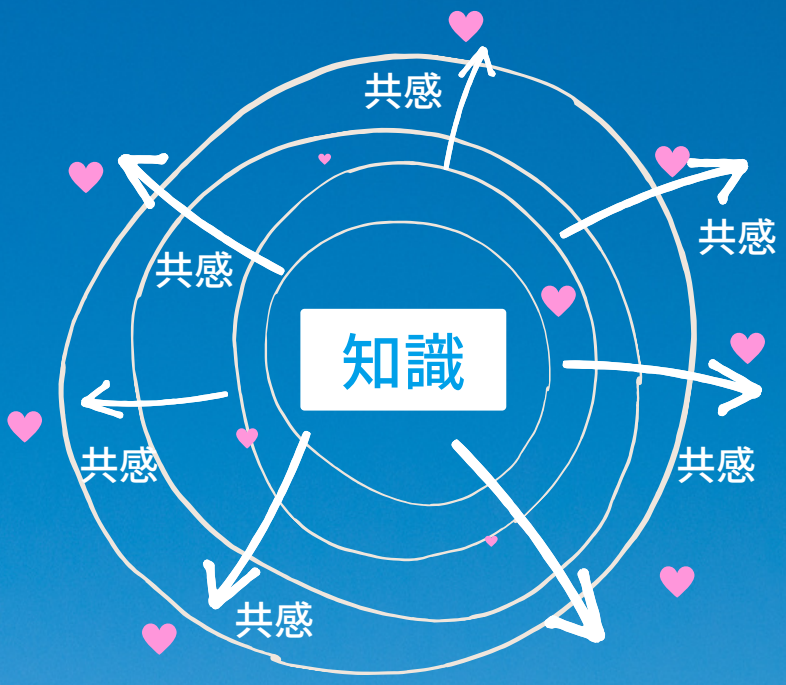
前向きに活動をする
どのような状況でも、過去や他者ではなく、これから自分たちが何をできるかにフォーカスします。調子がいい時も悪い時もチームで前向きに乗り越えます。

スタッフ・支援者で同じ目的に向かって協働する
私たちの活動はあらゆる人の協働で発展していきます。腰を据えて戦略的にプロジェクトを進めるスタッフ、寄付で力を託すサポーター、能力や時間で活動にパワーを与えるボランティアなど。リブはあらゆる関係者が成長できる団体を目指します。



動物解放団体リブ　スローガン

知識と共感で
動物解放を早める



設立から5年間、思考しながら活動を継続することで、
日本に適した活動の重要性を痛感してきました。

動物利用問題を根本解決するためには、
人間以外の動物への尊厳を認めることが必要でしょう。

では、何がカギとなるのでしょうか。
それは「知識」と「共感」です。

共感するためには知識が必要で、知識を自分事として捉えるには共感が必要。
その両輪を備えた活動をしていくことが今の日本の動物解放活動に必要だと
リブは考えています。

全ての動物が幸せに暮らし、共存している緑豊かで平和な地球という
ビジョンに向かって、常にチーム全体で向上していくことで、
一日でも早い動物解放の実現を目指します。

Animal Liberator

動物解放団体リブ

2022年度事業報告

【調査事業】

今年度の最も重要な事業は、鯨族利用問題に関するあらゆる調査と、その結果をまとめた書籍「イルカ・クジラ解放」の執筆でした。

2018年4月、水族館に監禁されているイルカの現状を記録し始め、2018年12月から和歌山県太地町のイルカ漁調査を開始しました。
5年越しの活動を一冊にまとめたのが本書です。

［本書執筆の背景］
イルカ・クジラ解放擁護活動の歴史は長く、さまざまな成果を出してきましたが、知識やスキルの継承は不十分です。
筆者自身、問題の全体像や構造を理解するまでには、長い時間と努力が必要でした。
活動を始める人が、蓄積された知的基盤の上からスタートできるようにしなければ、活動家が毎回苦労して自力で情報を調査せざるを得なくなる、、、。
そのような状態ではいつまで経っても活動は高度化しませんし、それどころか過去の活動を参照できないことで活動が退化することさえあり得ます。

この課題は早かれ遅かれ解決する必要がある。
この本は、未来の活動家のための知識基盤です。

［無料で配布しています！］
上記の通り、本書の目的は、活動を始める活動家が、蓄積された知的基盤の上からスタートできるようにサポートすることです。

本書の目的に鑑みて、当面の間無料で配布することにしました。
ご希望の方は、右のQRコードからPDFをダウンロードできます。

イルカ・クジラを解放しよう。

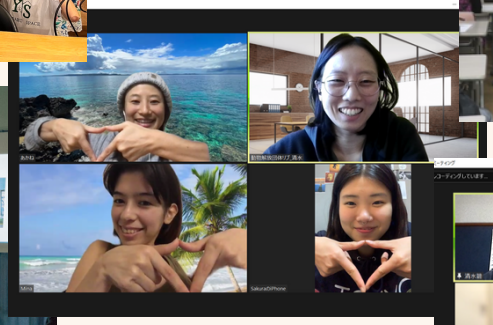
【教育事業】

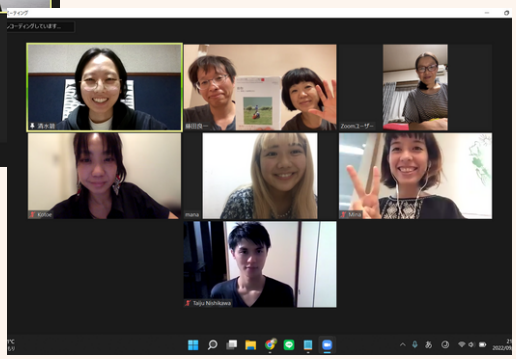
教育事業とは、動物利用問題について広く一般に情報を届けたり、活動家をサポートするための事業の総称です。

今年は、動物利用問題と動物解放活動に関するインターネット上の情報基盤構築の必要性から、ウェブサイトのリニューアル計画を開始しました。4月にクラウドファンディングを開始し、そこからリニューアルの具体的な計画を設計し始め、エンジニア探しなどを開始しました。今年度中にリニューアルは完成しませんでしたが、来年序盤に完成を目指して作業を進めています。

また、今年開始した学びのコミュニティづくりでは、「読書くらぶ」「映画くらぶ」を開始しました。それぞれ、読書と映画鑑賞を通して動物利用問題や動物解放活動に関連する知識を学び、仲間と繋がる場所です。読書くらぶは開始した６月から基本毎週開催し、定期的に生活の中で動物利用問題を学べる場所、そして仲間と繋がる場所としての機能を果たすことができています。

また、活動家や市民全体への知識共有として様々なゲストとの対談も行いました。学校の教師として、レストランのオーナーとして、活動家として、メンタルヘルスの視点、学術的な視点からなど、様々なゲストをお呼びすることで多角的な視点から活動を考える機会を提供してきました。





2022年度会計報告

リブの活動は主に毎月どうぶつサポーターの皆様と、単発支援者の皆様によって成り立っています。今年度は動物解放のための総合サイトづくりのためのサイトリニューアル費用をクラウドファンディングで募ったため、単発寄付が例年より多くなっています。これまでは人員不足により本格的なファンドレイジング施策を打てませんでしたが、2023年度からはボランティアスタッフを積極的に募集し、事業を加速させるための資金調達施策を実行します。

経常収益

（単位：円）

科　　目	金　　額		
Ⅰ経常収益			
1受取会費			
正会員受取会費	50,000	50,000	
2受取寄附金			
受取寄附金	1,609,643		
マンスリーサポーター	1,379,894	2,989,537	
3受取助成金等			
受取民間助成金	231,543	231,543	
4事業収益			
特定非営利活動事業収益	0	0	
5その他収益			
受取利息	50		
雑収益	89,036	89,086	
経常収益　計			3,360,166

経常費用[事業費]

科　　目	金　　額	
Ⅱ経常費用		
1事業費		
(1) 人件費		
役員報酬	201,600	
給料手当	1,880,000	
法定福利費	252,849	
人件費　計	2,334,449	
(2) その他経費		
取材費	6,600	
業務委託費	110,000	
印刷製本費	25,085	
旅費交通費	125,798	
車両費	131,212	
通信運搬費	142,842	
消耗品費	103,680	
諸会費	4,152	
租税公課	43,760	
減価償却費	131,653	
研修費	3,000	
支払手数料	7,730	
新聞図書費	11,901	
その他経費　計	847,413	
事業費　計		3,181,862

経常費用[管理費]

科　　目	金　　額	
2管理費		
(1) 人件費		
役員報酬	50,400	
法定福利費	4,554	
人件費　計	54,954	
(2) その他経費		
印刷製本費	3,261	
旅費交通費	5,420	
車両費	112,124	
通信運搬費	19,002	
消耗品費	99,772	
賃借料	19,800	
諸会費	9,000	
租税公課	2,850	
研修費	1,000	
支払手数料	133,210	
新聞図書費	965	
減価償却費	32,913	
支払報酬	11,079	
雑費	23,291	
その他経費　計	473,687	
管理費　計		528,641

当期経常増減額

科　　目	金　　額		
経常費用　計			3,710,503
当期経常増減額			△350,337
Ⅲ経常外収益			
経常外収益計		0	
Ⅳ経常外費用			
経常外費用計		0	
当期経常外増減額			0
税引前当期正味財産増減額			△350,337
法人税、住民税及び事業税			0
当期正味財産増減額			△350,337
前期繰越正味財産額			1,271,149
次期繰越正味財産額			920,812

今後の活動について

①動物解放のための総合サイト

日本では動物解放に関連する情報が不足しています。例えば、動物利用問題、動物権利・動物解放の理念や根拠、活動の始め方、活動手法、海外の活動の現状、ヴィーガニズム、ヴィーガンになった後に困るコミュニケーション、メンタルヘルスについての情報など。

動物解放活動に関する情報基盤の整備、つまり、必要な情報を収集し網羅的体系的にまとめ一元化し、わかりやすくアクセスしやすい形で提供することは、誰かが必ず行わなければならない必須の事業です。

リブはこれまでの調査情報を活かして、本格的に日本語での動物解放に関する情報基盤を構築します。

②動物解放アカデミー

日本の動物解放活動において必要なことは何か。それは新しい活動家や団体を増やすこと、すでに活動している活動家の高度化を図ることです。活動家や団体が増えれば、より広範なターゲットにリーチできる活動を行え、より大きな成果を産み、またそのことが活動界全体の活性化を促し、社会の変革を加速させるという好循環に繋がります。

そのために、活動を行うにあたって必須の知識、動物解放の根拠、動物利用問題、活動手法、海外の団体の情報を伝えるアカデミーを行います。

③畜産動物の調査活動

リブは設立時から限られたリソースで最大限効果的な活動を行うために、日本で活動が手薄かつ重要な分野に焦点を当て活動しています。
設立時から調査分析の上で活動分野と優先順位を「娯楽分野→畜産分野→野生分野」と設定し、その計画通り、まずは娯楽分野での活動を行って参りました。

今後は次のステップとして畜産分野の活動にも注力して活動を行います。

対象は牛、豚、鶏など畜産で扱われる動物全般です。その中で日本においては、特に馬の分野に対して活動を行うことが重要です。日本では競馬と食肉に馬が利用されています。競馬は膨大な金額が動いており、その金額の一部が、畜産業界に補助金として投入されています。例えば、日本の競馬で、たった1レースの最大の売り上げは、約875億円で、畜産に対する競馬の影響力の大きさがわかります。その流れを可視化し、啓発することが重要です。日本では動物解放という目線で競馬業界に対する活動を本格的に行っている団体はありません。巨大であり、しかも、無視されている分野に対する活動を行うことを方針としているリブが扱うべき分野だと判断しました。

活動を支えてください！
毎月どうぶつサポーター募集中！

支援・参加の方法

読書くらぶで学ぶ

講演会を主催する

リーフレットを配る

ボランティアスタッフとして
一緒に活動する

寄付で活動を支える！

↓詳しくはこちら！

↓各種SNSもぜひフォローしてください↓

「リブに力を託す。」

動物解放団体リブ
毎月どうぶつサポーター
募集中!

苦しんでいる動物たちを助けたい。
動物は権利で守られ、解放されるべき存在。
リブは、知識と共感で動物の解放を早めます。

頂いたご支援は、全て動物解放のための活動に使わせていただきます。
会計報告は毎年、報告書とウェブサイトにて全ての人に公開しています。

問題解決のための根本的な活動をするためには、継続的なご支援が必要です。
ご支援を通して、一緒に動物利用問題を解決する仲間になってください。

動物を解放しよう

申し込み受付中！

企業様によるご支援や遺贈寄付もありがたく受け付けています。お気軽にご連絡ください。
animal.liberator.net@gmail.com

Animal Liberator

動物解放団体リブ